



2009年3月期 第2四半期連結累計期間 業績概要

2008年10月30日

アンリツ株式会社
社長 戸田 博道

東証第1部: 6754
(<http://www.anritsu.co.jp/j/ir>)

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的
事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を
含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関
する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能
性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、
さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知お
きください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、
米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向
や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが
引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなど
です。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、
法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、
将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目 次

- 当社の事業セグメントの呼称と事業内容
- サマリー
- 第2四半期連結累計期間の業績の概要
- 2009年3月期の通期見通し
- 計測器事業の今後の取り組み

当社の事業セグメントの呼称と事業内容



セグメント	サブセグメント	事業内容	担当事業部門 の主な所在国
計測器	NGNおよびインフラ関連分野	光・デジタル・IP通信機器の開発・製造用テスト、有線ネットワークおよび無線インフラ敷設・保守用テスト、サービスアシュアランスなど	日本・米国・デンマーク・フランス・イタリア
	携帯端末分野	携帯電話端末開発・製造・保守用テスト	日本・英国
	汎用分野	無線設備、電子部品等の開発・製造用汎用テストなど	米国・日本・英国
情報通信		映像配信機器、通信機器、IPスイッチとその応用システムなど	日本
産業機械		食品・薬品・化粧品用重量選別機、異物検出機など	日本、タイ
その他		精密計測、光デバイスなど	日本

サマリー(1)



1. 第2四半期連結累計期間 業績サマリー

(単位: 億円 四捨五入)

	前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	514	448	△ 66	△13%
売上高	488	444	△ 44	△9%
営業利益	13	5	△ 8	-
経常利益	△ 3	2	5	-
税引前当期純利益	△ 3	△ 12	△ 9	-
当期純利益	△ 2	△ 16	△ 14	-
フリーキャッシュフロー	1	42	41	-

(注1) 棚卸資産の評価方法として今期より低価法を適用しています。その影響額は、

- ① 棚卸資産評価損の営業外費用から営業費用への変更が4億円
- ② 期首に過去分として計上した特別損失が14億円

(注2) 値はそれぞれの欄で四捨五入

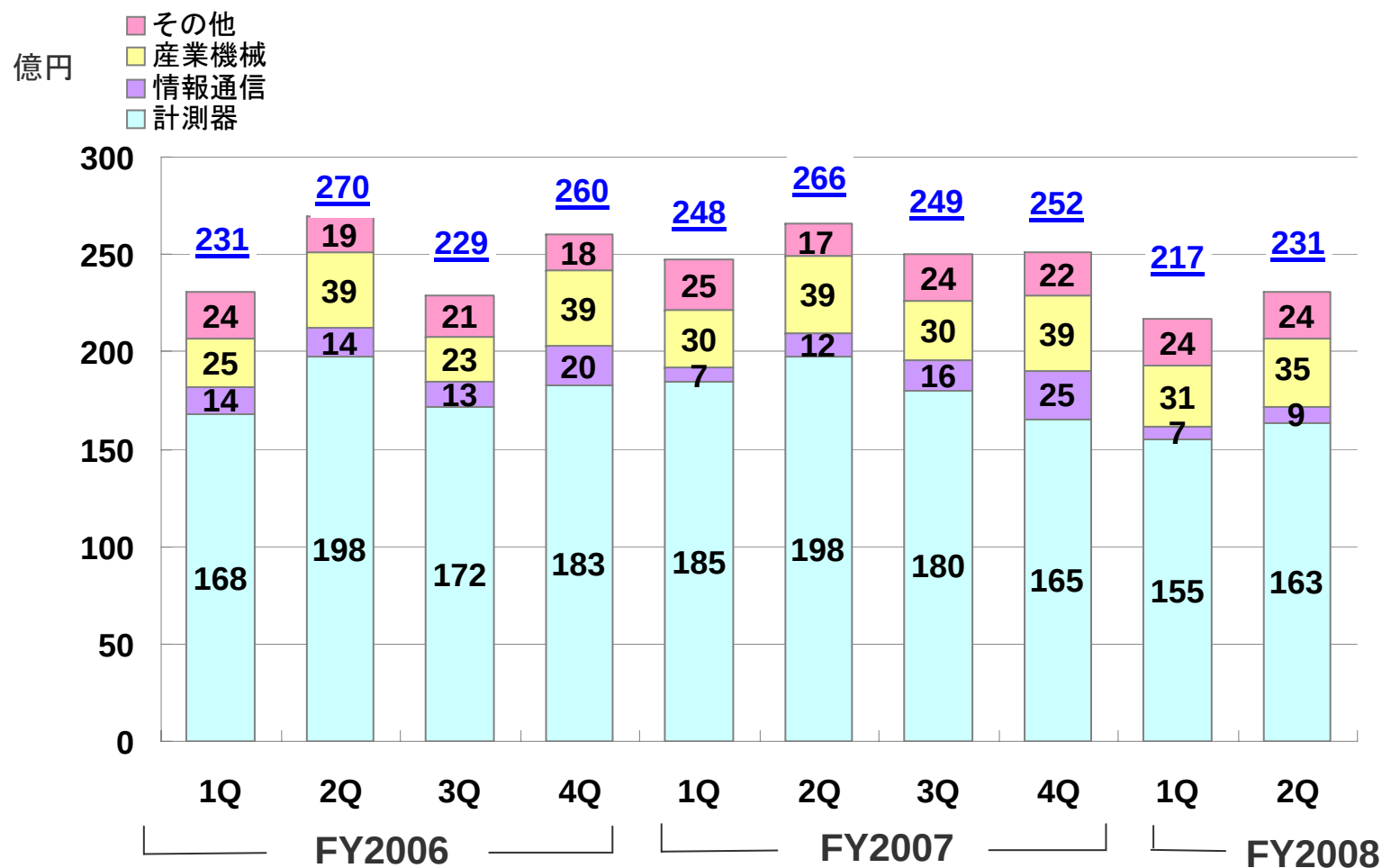
サマリー(2)



2. 営業概況

計測器	日本は携帯端末関連、汎用など予想以上に低調 米国などで無線インフラ用ハンドヘルド製品が引き続き堅調 デジタル・IPネットワーク用計測器の競争激化 サービスアシュアランスの受注遅れによる売上の期ずれ
情報通信	計画通り進捗
産業機械	計画通り進捗
その他	光デバイスが好調

事業別受注推移(連結)



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

事業別売上高・営業利益(連結)



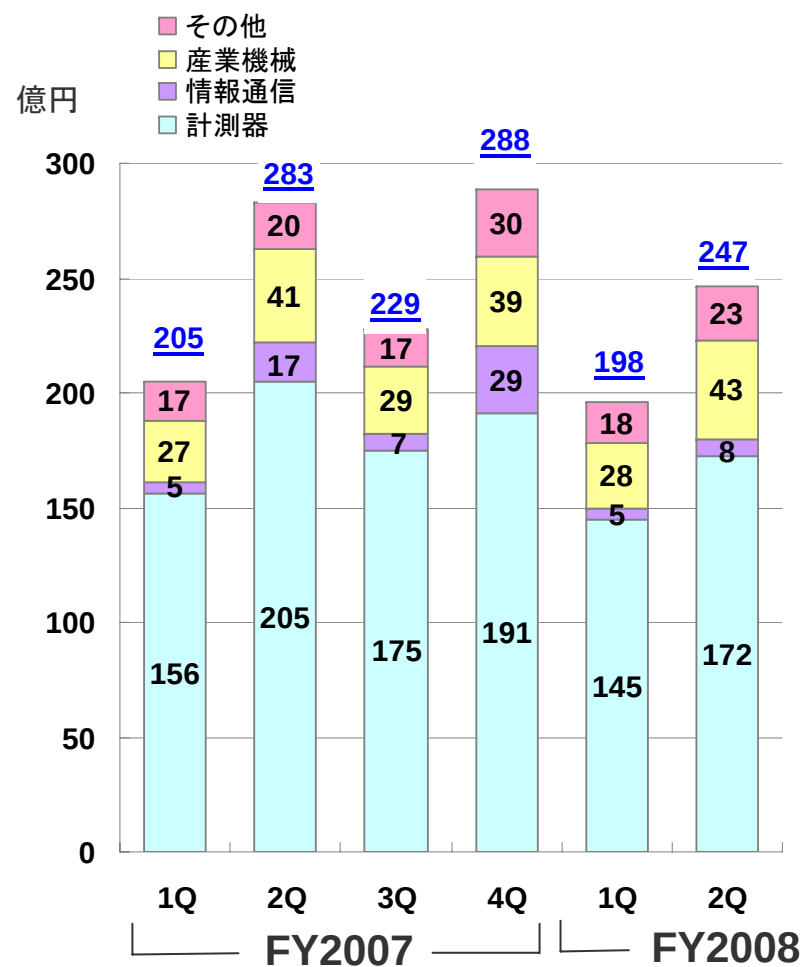
(単位:億円 四捨五入)

		前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
計測器	売上高	361	318	△ 43	△ 12%
	営業利益	10	1	△ 9	-
情報通信	売上高	22	14	△ 8	△ 38%
	営業利益	△ 3	△ 5	△ 2	-
産業機械	売上高	68	72	4	5%
	営業利益	5	4	△ 1	-
その他	売上高	37	41	4	11%
	営業利益	1	5	4	-

(注1) 棚卸資産評価損の営業利益への影響額は、主に計測器に3億円

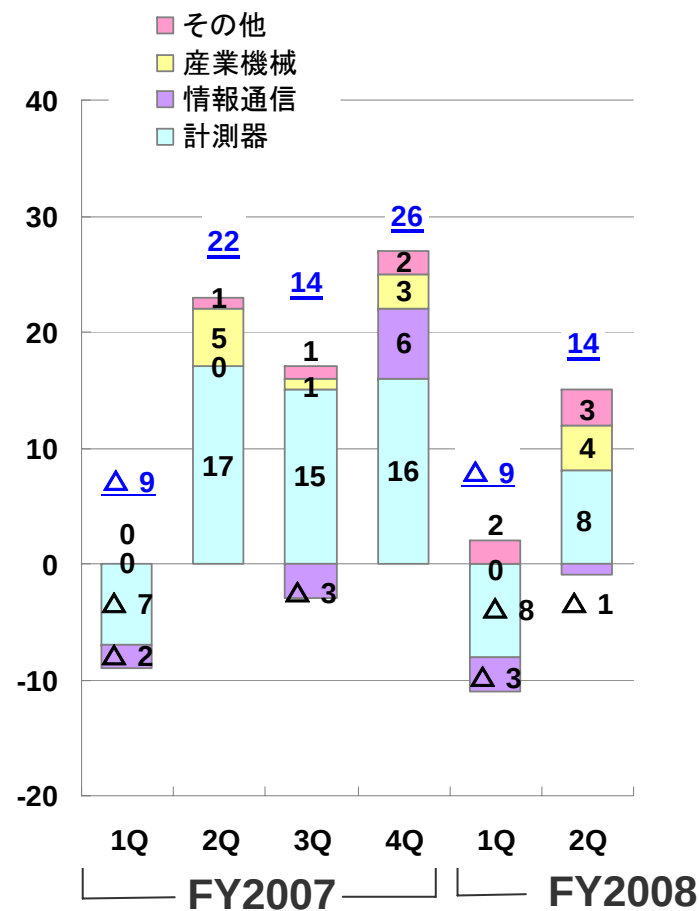
(注2) 値はそれぞれの欄で四捨五入

事業別売上高・営業損益推移(連結)



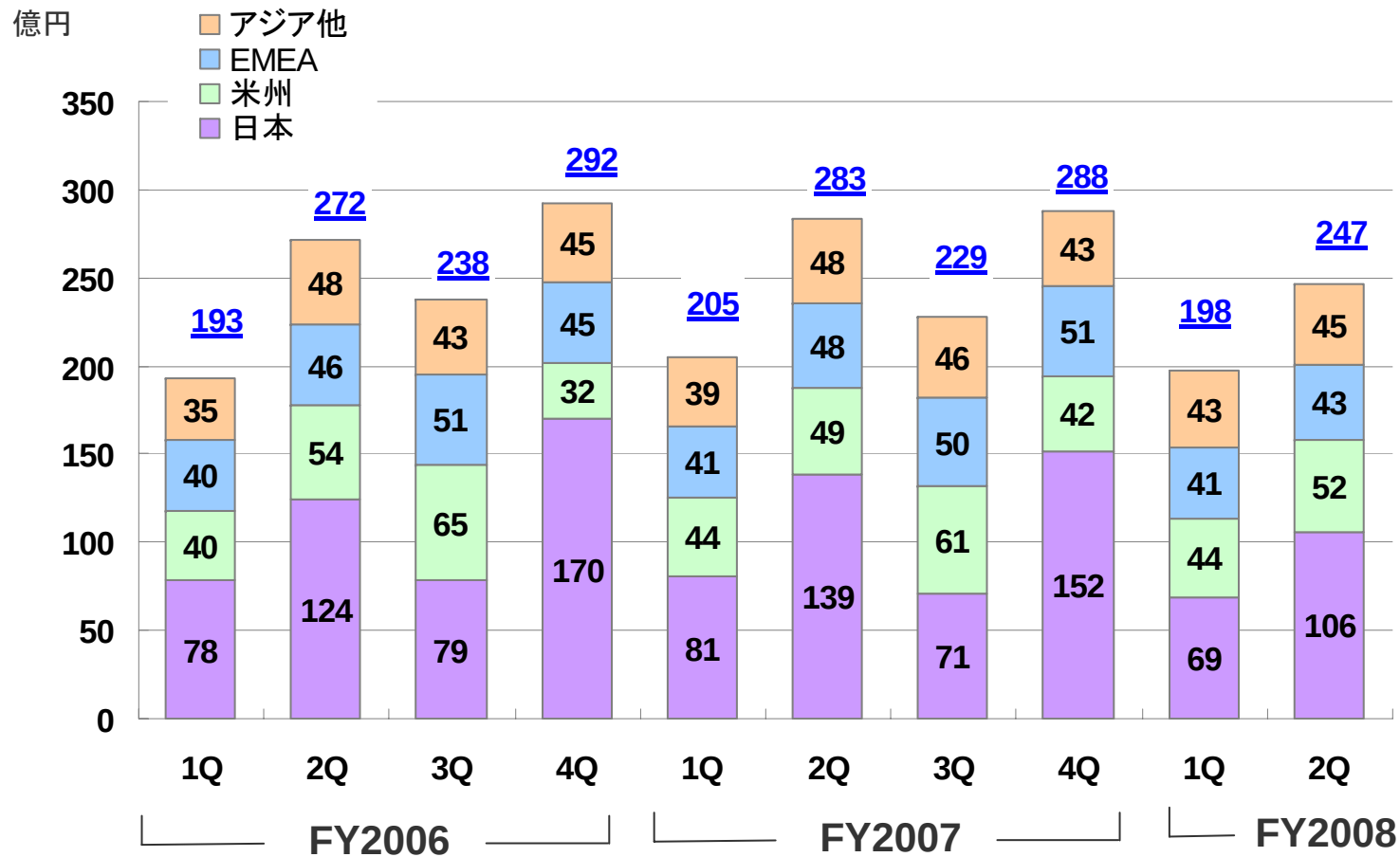
連結売上高

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入



連結営業利益

地域別売上高推移(連結)



(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

営業外・特別損益概要(連結)

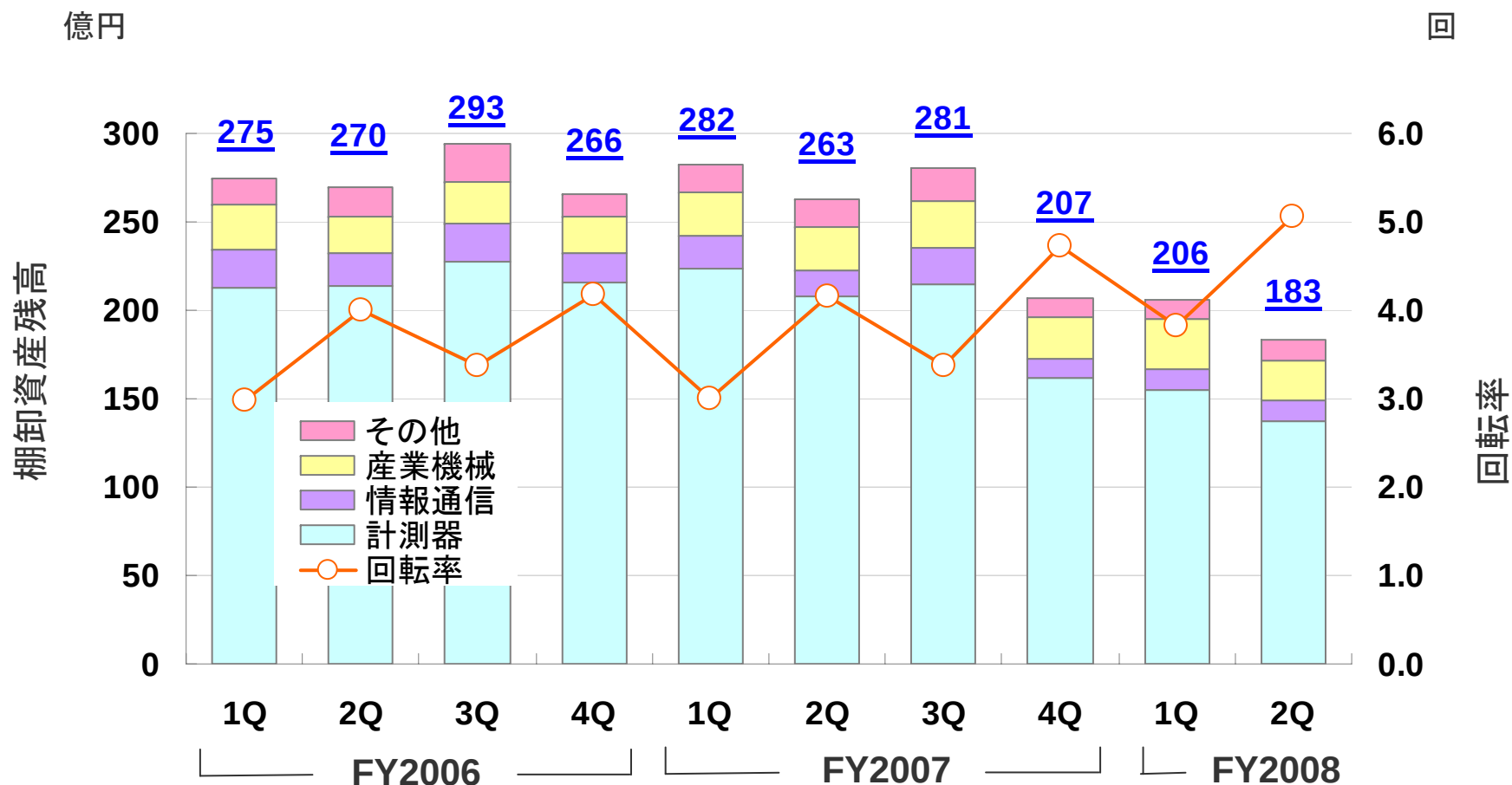


単位: 百万円 四捨五入

	前第2四半期連 結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期連 結累計期間 (4-9月)実績
営業利益	1,276	544
金融収支	△ 327	△ 241
棚卸資産評価損・廃棄損	△ 913	(注)△12
為替差損益	△ 11	△ 179
その他	△ 342	65
営業外損益計	△ 1,593	△ 367
経常利益	△ 317	177
棚卸資産評価損	-	△ 1,358
その他	△ 29	△ 17
特別損益計	△ 29	△ 1,375
税引前利益	△ 346	△ 1,198

(注)2008年度は廃棄損のみ

棚卸資産残高推移(連結)



(注1) 回転率 = 四半期売上高 × 4 / 四半期単位平均棚卸資産 (注2) 値はそれぞれの欄で四捨五入

キャッシュフロー概要(連結)



第2四半期連結累計期間

- ①営業CF: 53億円
- ②投資CF: △11億円
- ③財務CF: △12億円

フリーキャッシュフロー

(①+②): 42億円

現金同等物残高

196億円

内訳

単位: 億円 △: 減少

減価償却・ のれん償却 19		
たな卸資産 25		
売上債権 61		
税引前利益△12	設備投資 △9	借入金 △7
仕入債務 △28	その他 △2	配当金支払 △4 その他 △1
税金 △6		
その他 △6		
営業CF 53	投資CF △11	財務CF △12

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

2009年3月期通期の見通し(連結)



単位: 億円

		2008/3期	2009/3期	
		通期実績	通期予想	前期比 増減額
				増減率(%)
売上高		1,005	970	△ 35
営業利益		54	40	△ 14
経常利益		△ 20	30	50
当期純利益		△ 39	5	44
計測器	売上高	727	690	△ 37
	営業利益	41	25	△ 16
情報通信	売上高	57	60	3
	営業利益	1	1	-
産業機械	売上高	136	145	9
	営業利益	8	10	2
その他	売上高	84	75	△ 9
	営業利益	3	4	1

配当: 1株当たり年間7円(うち中間配当3.5円)を予定

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

(参考) 想定為替レート: 1米ドル=100円

計測器事業の今後の取り組み

マクロ経済：

世界の景気後退の懸念は高まっているが、
通信インフラなど、安全・安心な社会実現への
投資は継続

通信市場：

- ・携帯電話、ブローバンドワイヤレスの進展
 - ・2Gから3G/3.5Gへの移行
 - ・新方式の開発本格化（LTE、WiMAXなど）
- ・コアネットワークのNGN化（超高速光化、IP化）
- ・アクセス系のFTTH化

「経営革新2008」を着実に実行

今年度は、組織の効率化をテコに、利益実現を最優先課題として取り組んでいる

- ・プロダクトミックスの改善：
利益率の良い新製品の投入、売上拡大
品揃えの充実
- ・価格競争力強化
特にフィールドの保守・建設用計測器のローコスト設計
- ・R&D費の投資効率の向上、経費の改善

計測器事業の取り組み

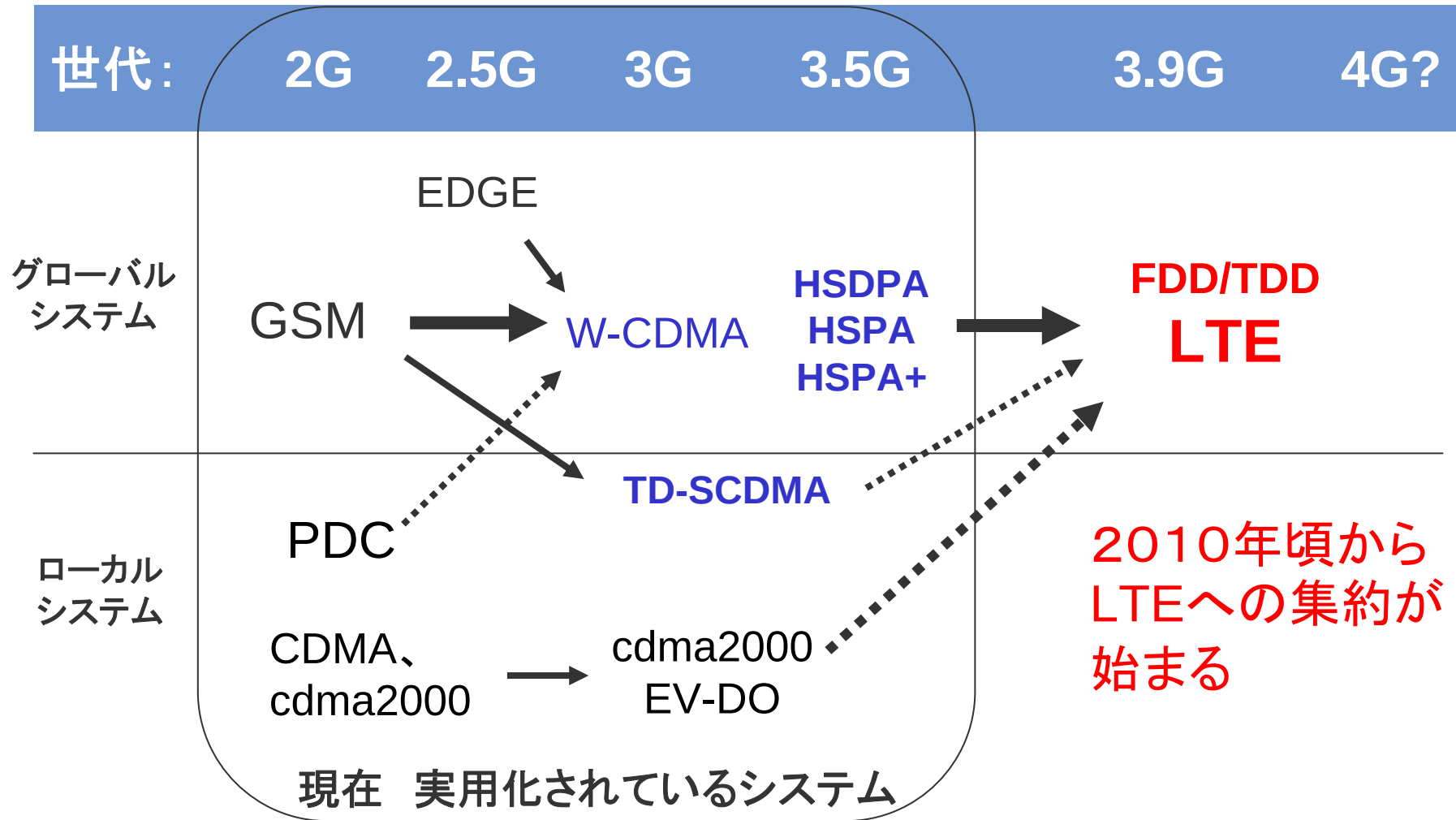


	市場動向	取り組み
日本	・LTEの開発立ち上がり ・LTE、WiMAX向けなどのRFデバイスの開発、生産の需要拡大 ・NGN、FTTHの継続的な投資	・LTE向け計測ソリューションの提供、拡充 ・RFデバイス等への汎用計測ソリューションの拡大 ・光デジタル計測ソリューションのシェア拡大
米州	・無線インフラ(携帯電話、WiMAXなど)への継続した投資 ・FTTH市場の拡充 ・通信事業者のサービス品質への需要拡大	・ハンドヘルド計測ソリューションの拡大、トップポジション堅持 ・光デジタル計測ソリューションのシェア拡大 ・サービスアシュアランス事業の拡大
EMEA	・中東、アフリカ、ロシアの通信インフラの需要拡大 ・通信事業者のサービス品質への継続的な投資	・ハンドヘルド建設保守用ソリューションの拡大 ・サービスアシュアランス事業の拡大
アジア 他	・通信インフラの整備・拡大 ・FTTH市場の立ち上がり	・ハンドヘルド建設保守用ソリューションの拡大 ・光デジタルソリューションのシェア拡大

LTEへの取り組みについて

(注)LTE : Long Term Evolution 第3.5世代の次の第3.9世代といわれるワイヤレス通信規格

世界の携帯電話システムの世代推移



LTE導入の動向



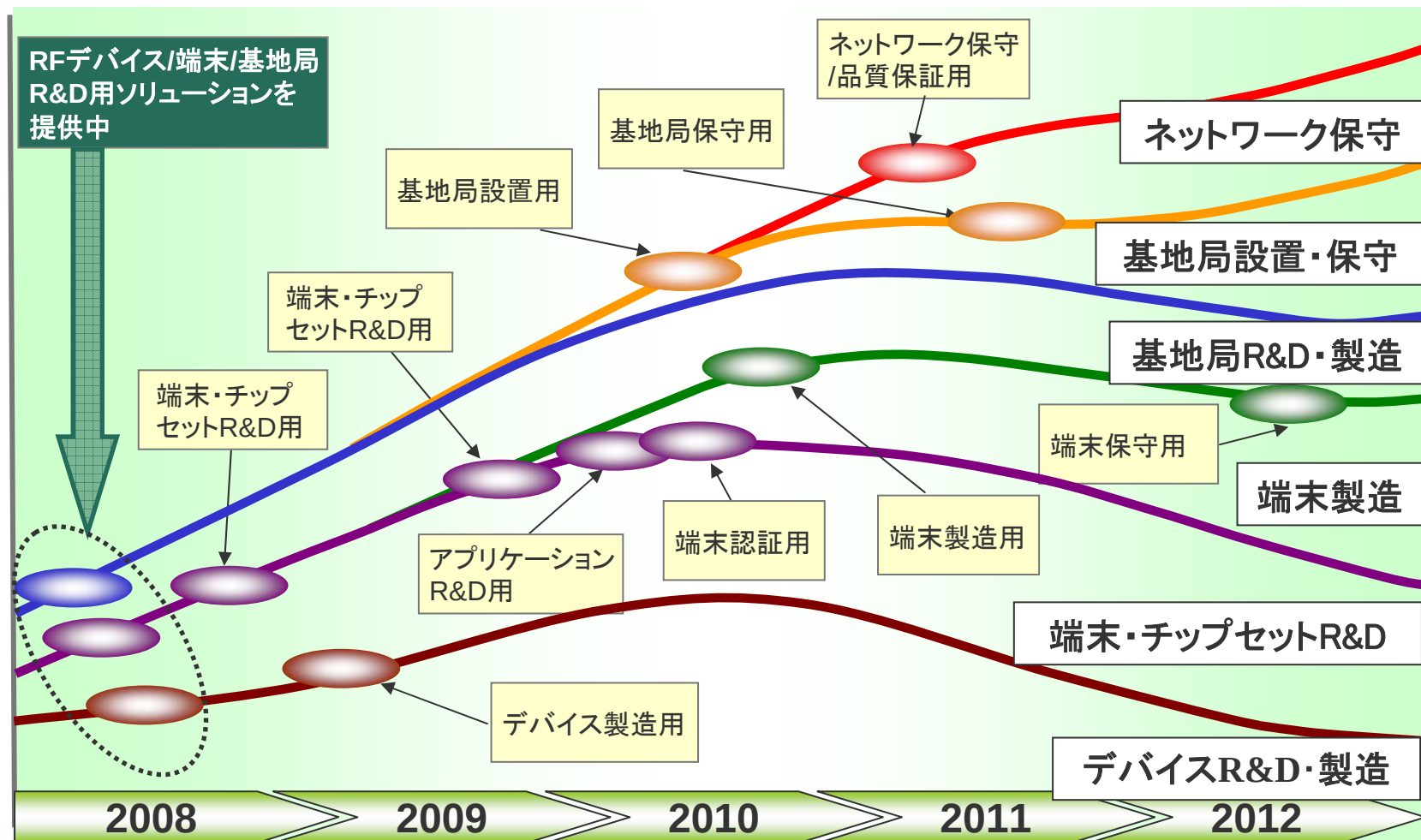
LTEは、3GPPで次世代のモバイル通信方式として標準化作業中
世界の有力携帯電話事業者が2009年度以降に商用化を予定
——W-CDMA系だけでなく、CDMA系の事業者も次世代方式として採用予定、
計測器の需要が世界同時的に拡大



LTEソリューションの市場機会

1

想定されるLTE計測ソリューション需要



LTEに対するアンリツの取り組み



3G/3.5Gの開発用計測器でのトップポジションの強みを生かし、
主要なグローバル顧客と密着して計測ソリューションをタイムリー
に提供し、LTEのリーディングカンパニーとなる

対象	市場動向	取り組み
基地局	・開発が進行中、製造の需要も立ち上がる	・開発用、製造用計測ソリューションの提供 ・建設/保守用のハンドヘルド製品の提供
RFフロントエンドなどの部品	・開発、製造が進行中	・開発用、製造用計測ソリューションの提供
端末	・今後本格的に開発が進む	・チップセット、端末の開発用、製造用計測ソリューションの提供
ネットワーク	・今後NGNのアクセス系ネットワークの一つとして開発が進む	・保守/品質保証用ソリューションの提供

Appendix 1 :なぜLTEか？

なぜLTE (Long Term Evolution)が導入されるのか？

- ・モバイルで光ファイバー並みのスピード
- ・ブロードバンドサービスをモバイルで実現し客単価アップ
- ・周波数利用効率の向上(経済性向上)

伝送速度の進化

通信方式	W-CDMA (UMTS)	HSDPA	HSPA	HSPA+	LTE
下り伝送速度 (bit/s)	384k	14.4M	14.4M	約42M	326.4M
上り伝送速度 (bit/s)	384k	384k	5.8M	約12M	86.4M

LTEとNGNの関係

LTEは、オールIP化の固定ネットワーク(NGN)のアクセス系ネットワークの一つとして位置づけられ、FMC(固定とモバイルのサービスの統合)を実現

Appendix 2: 用語集

- GSM: Global System for Mobile Communications
- EDGE: Enhanced Data GSM Environment
- W-CDMA: Wideband-Code Division Multiple Access
- HSDPA: High Speed Downlink Packet Access
- HSPA: High Speed Packet Access
- HSPA+: HSPA Evolution
- PDC: Personal Digital Cellular
- CDMA: Code Division Multiple Access
- TD-SCDMA: Time Division Synchronous Code Division Multiple Access
- EV-DO: Evolution Data Only
- LTE : Long Term Evolution 第3.5世代の次世代の第3.9世代のワイヤレス通信規格
- FDD: Frequency Division Duplex
- TDD: Time Division Duplex
- 3GPP: Third Generation Partnership Project
- NGN: Next Generation Networks
- UMTS: Universal Mobile Telecommunications System
- ハンドヘルド製品: 小型、軽量、電池動作の計測器のタイプ

Anritsu

Discover What's Possible™